

# 国語科学習指導案

指導者 福山市立樹徳小学校 恩塚 香帆

1 研修テーマ 「考えを形成」を促す小学校国語科の授業づくり  
～読みを自分の思いへつなげる指導の工夫～

2 日 時 令和5年9月27日(水)第3校時

3 学 年 第1学年1組 男子15名 女子16名 計31名

4 単元名 はたらくのりものやさん！おすすめのじどう車しょうかいします  
「じどう車くらべ」「じどう車ずかんをつくろう」(光村図書こくご一下 ともだち)

5 単元について

## (1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)国語第1学年及び第2学年の〔思考力、判断力、表現力等〕C「読むこと」の指導事項「(1)オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。」を受けて設定している。

「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ」力を育成するには、文章の構造と内容を捉え、精査・解釈する段階を経て、自分の既存の知識や経験と結び付けて解釈し、文章の内容に対して児童一人一人が思いをもつことが必要となる。

本教材は、3種類の自動車を事例として取り上げ、「しごと」や「つくり」について説明した文章である。3つの事例が同じ文型の繰り返しで書かれているため、文章の構造を捉えやすく、内容を正確に読み取ることに適している。また、児童にとって身近な自動車を事例として取り上げており、内容に対する自分の知識や体験を想起しやすい。そのため、文章を読んで理解した内容を自分のもつ知識や経験と結び付けやすい教材である。

## (2) 児童観

本学級の児童は、これまで、説明的な文章の「くちばし」を読む単元において、「問い」と「答え」の関係を捉え、事例ごとに重要な語や文を見付ける学習をした。その際、文章のまとまりごとの大まかな内容を捉えることや、文章の中から知りたい内容を選び、抜き出すことが難しい児童が数名いた。また、読むことの「考えの形成」を取り上げた学習はまだ行っていないため、児童自身が意識して自分の知識や経験と文章の内容とを結び付けて文章を読むことは初めてである。文章の内容と結び付けるべき児童の既存の知識や経験は児童によって様々であるため、児童が、どのような既存の知識や経験をもち、文章のどの部分と結び付けようとしているのかを明確にさせながら学習を進める必要がある。

## (3) 指導観

指導に当たっては、文章の内容の理解をもとに、考えの形成を行えるように単元を構成する。

内容の理解については、事例ごとに同じ文型が繰り返されていることに着目させ、文章の色分けをしたり、言葉の意味を確認したりしながら、それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」を理解できるようにする。また、穴埋め型のワークシートを活用し、徐々に記述の量を増やしながら重要な語を選び出せるようにしていく。

考えの形成については、単元を通して自動車について知っていることを話す時間を十分に取り、それらをその都度掲示していく。掲示した児童の既存の知識を示すことで、更に他の児童が自分自身の知識や経験を想起しながら対話できるようにしていく。児童一人一人の既存の知識や経験をお互いに共有しながら、多くの知識や経験を引き出せるようにする。また、第三次では、選んだ自動車ごとにグループを作り、「のりものやさん」として自動車を紹介する学習活動を仕組んでいく。第二次で書いたワークシートに自分の知識や経験を付箋で貼ることで、文章の内容と結び付けられるようにし、「理解が深まったところはどこか。」という視点で解釈したことを書かせていく。解釈したことと自分の思いが繋がるようにワークシートを構成し、理解した内容をもとに、文章に対する自分の思いをもてるようにする。

6 単元の目標

- 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。  
〔知識及び技能〕 (2) ア
- 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕 C (1) ウ
- 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕 C (1) オ
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。  
「学びに向かう力、人間性等」



8 指導と評価の計画（全14時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・ 評価方法 等
一	1 ・ 2	<p>学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車に関する本の考え聞かせを聞き、興味関心を高める。</li> <li>・自動車についての経験を想起させ、自由に交流する。</li> <li>・範読を聞き、感想を交流する。</li> <li>・児童の疑問や感想から学習内容を定め、学習計画を立てる。</li> </ul>				
二	3 ～ 7 (本時)	<p>「じどう車くらべ」を読み、3つの事例を比較しながら内容を解釈する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例の説明の仕方を比較し、文章の全体構成を捉える。</li> <li>・それぞれの事例の内容をワークシートにまとめ、感想をもつ。</li> </ul>	○	○		<p>[知識・技能] ワークシート・発言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。</li> </ul> <p>[思考・判断・表現] ワークシート・発言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。</li> </ul>
	8 ～ 10	<p>乗り物に関する本を読み、調べたことを紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の調べたい乗り物を決め、本を使って調べる。</li> <li>・大事な言葉に気を付けて読み、調べたことをワークシートにまとめる。</li> </ul>				
三	11 ～ 13	<p>自分がおすすめしたいと思った自動車を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでにまとめたワークシートを比較して紹介する自動車を決め、自分の思いや考えを入れながら、自分が選んだ自動車を紹介する文章を書く。</li> <li>・選んだ自動車ごとにチームを作り、「のりものやさん」になって自動車を紹介し合う。</li> </ul>		○	○	<p>[思考・判断・表現] ワークシート・発言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。</li> </ul> <p>[主体的に学習に取り組む態度] ワークシート・児童の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習の見通しをもって、分かったことや思ったことを文章にまとめようとしている。</li> </ul>
	14	<p>学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を振り返り、付いた力やこれからの学びに生かせることを考える。</li> </ul>				

9 本時の学習（7/14）

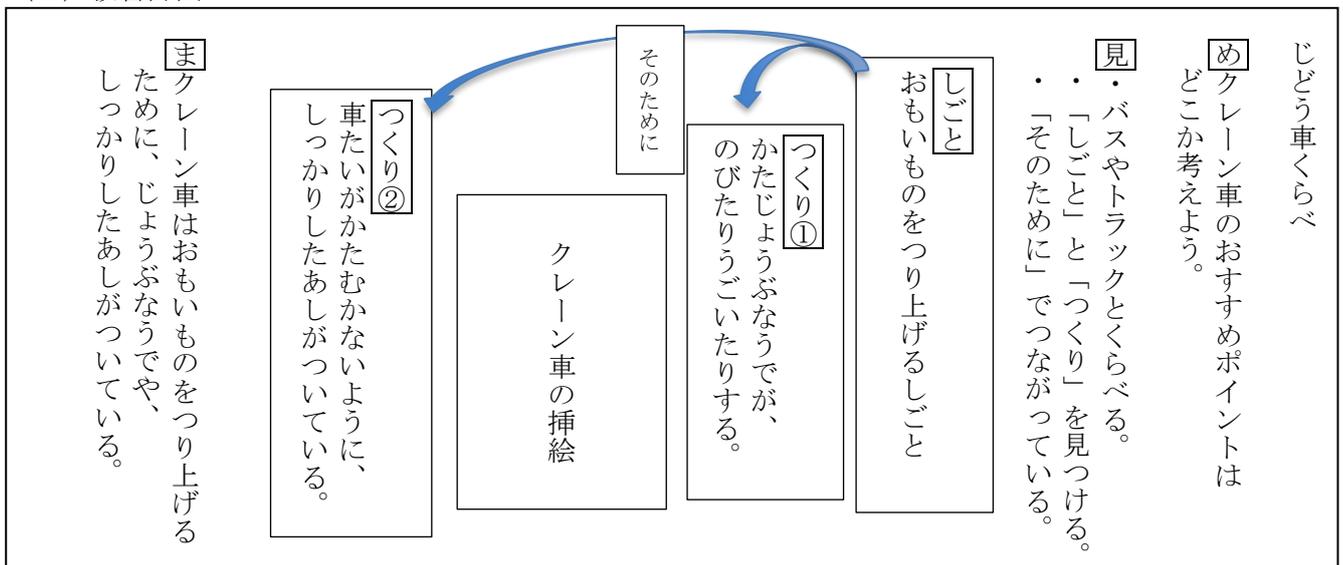
(1) 本時の目標

クレーン車について書かれている内容を理解し、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。

(2) 学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 □主な発問 ・予想される児童の反応 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
○クレーン車についての知識や経験を想起する。 ○本時のめあてを確認する。	○自分の知識や経験を想起できるよう、児童にクレーン車について知っていることを自由に交流させ、対話する中で詳しく内容を聞き出す。	
クレーン車のおすすめポイントはどこか考えよう。		
○学習の見通しをもつ。  ○クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取る。  ○本時のまとめと振り返りをする。  ○次時の見通しをもつ。	○前時までの学習を生かして学習の見通しをもてるよう、既習内容を掲示する。  □クレーン車の「しごと」と「つくり」は何でしょう。 ・「しごと」は、重いものをつり上げること。 ・「つくり」は丈夫な腕が伸びたり縮んだりすることと、しっかりした足が付いていること。 ・重いものをつり上げると、車体が傾くから、車体が傾かないように、足が付いている。 ○「運ぶ」と「つり上げる」の意味の違いに気付けるよう、トラックと比較するように促す。 ○「つり上げる」、「腕」、「傾く」などの言葉の意味を正しく捉えられるよう、動作化を取り入れたり、挿絵に印をつけるよう指示したりする。 ○「しごと」と「つくり」のつながりに気付くことができるように、矢印で本文の言葉をつないだり、2つの「つくり」を比べるように促したりする。 ◆努力を要する児童には、本文を色分けさせたり、個別のワークシートを用意したりし、重要な語に着目できるようにする。  ○自分なりの考えをもてるよう、授業の始めに共有した自分の経験や、動作化などで確認した言葉の意味、バスや乗用車で読み取った内容などを本文と結びつけるように助言する。  ○次時は「はしご車」の読み取りをすることを伝える。	[思考・判断・表現] ワークシート・発言 ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。

(3) 板書計画



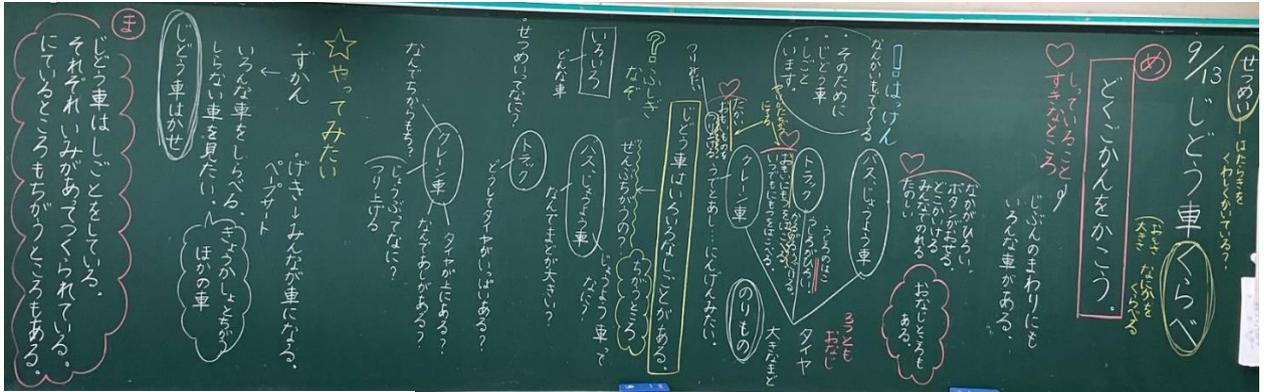
10 指導の実際

(1) 指導上の工夫

**内容の理解（「しごと」と「つくり」を読み取る）ための工夫**

① 単元構成の工夫

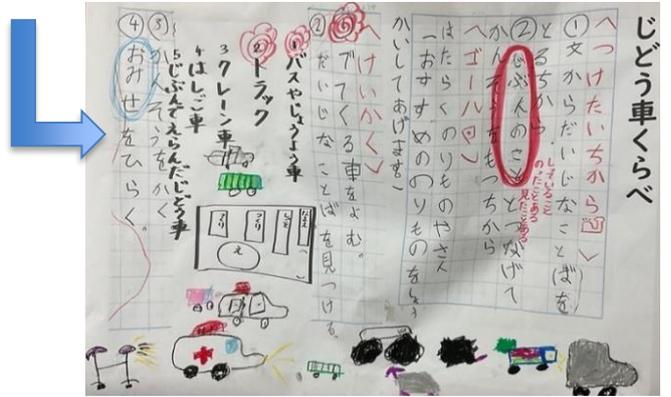
- 単元の初めに、教材文に対する児童の疑問や感想（読後感）から、「付けたい力」や、「やってみたいこと」を話し合い、学習計画を立てた。



(読後感を交流し合った際の板書)

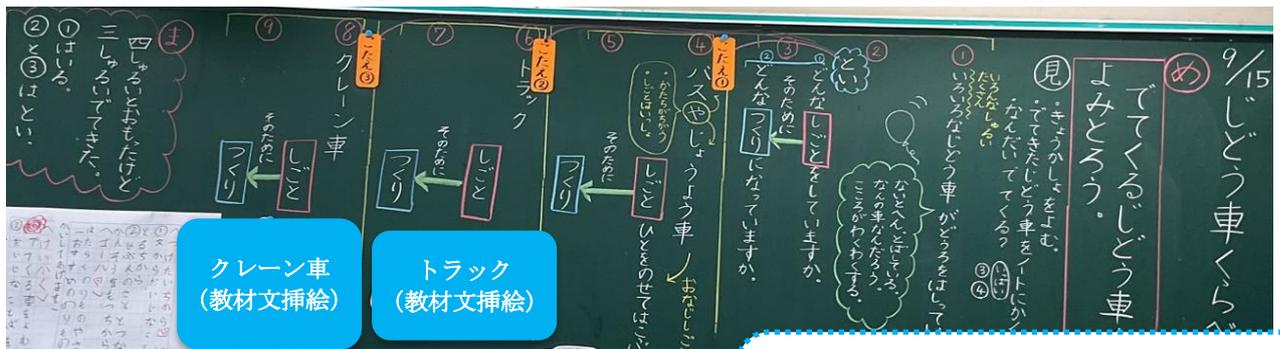
教材文を読んだ後の児童の素直な感想から、学習計画を立てた。

第三次で「のりものやさん」として自動車を紹介する学習活動に向けて、児童は学習の見通しをもったり、学習意欲を高めたりしていた。「調べたことを伝えたい。」という思いをもったことで、単元の最後まで学習意欲を持続させることができた。



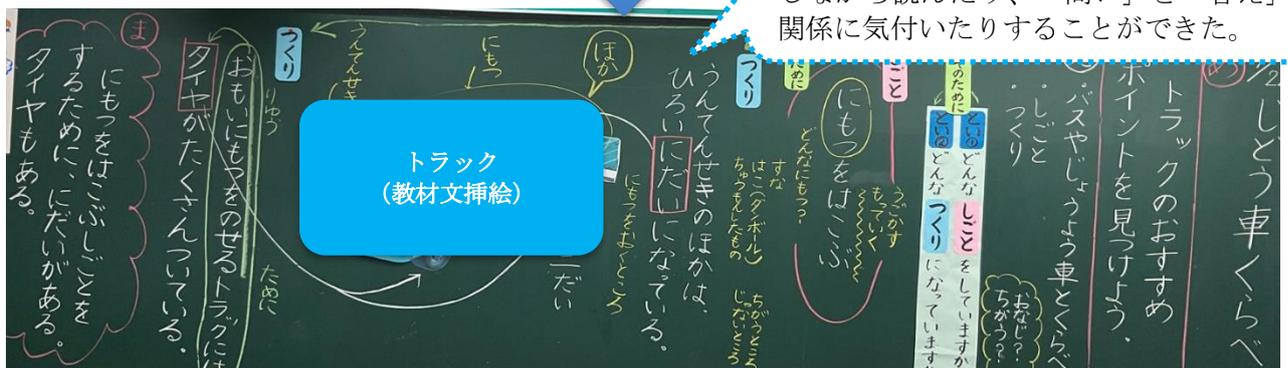
(児童が立てた学習計画)

- 全体の内容把握（全体読み）と各段落の内容把握（詳細読み）を分けて取り扱うのではなく、必要に応じて互いを関連させながら読み深めた。



(全体読みの際の板書)

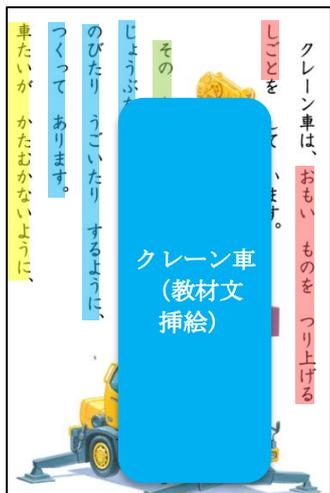
詳細読みをする際、必要に応じて全体読みを取り入れることで、3つの事例を比較しながら読んだり、「問い」と「答え」の関係に気付いたりすることができた。



(詳細読みの際の板書)

② ワークシートの工夫

- 教材文の「しごと」と「つくり」を色分けし、ワークシートも同じ色でまとめられるようにした。児童は、同じ文型が繰り返されていることに気付き、前の事例での学びを生かして読み深めることができた。

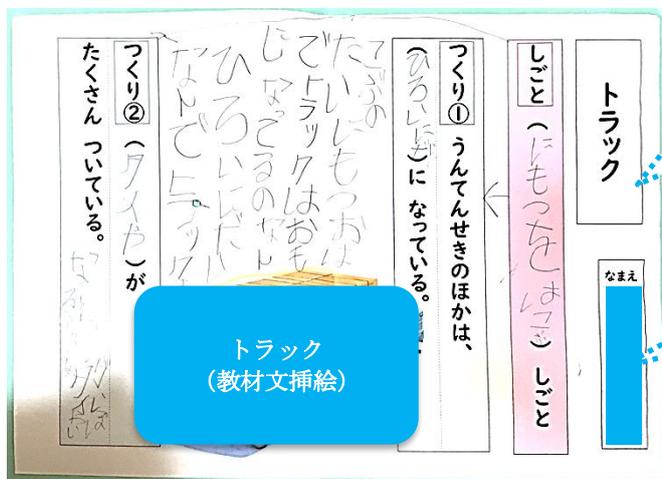


(色分けした教材文)



(児童のワークシート)

- 穴埋め型のワークシートを活用し、徐々に記述の量を増やしながら重要な語を選び出せるようにした。どのワークシートを使うかを児童が選べるようにし、段階的に書き抜く量を増やすことで、どの児童も「しごと」と「つくり」が書かれている箇所を文章から見付けることができた。
- 余白を多く取り、どのようにワークシートを活用するかは児童に任せた。自由度が高かったため、活用の仕方にも幅が見られた。語や文と挿絵を線でつなぐなど、工夫して情報を整理していた。

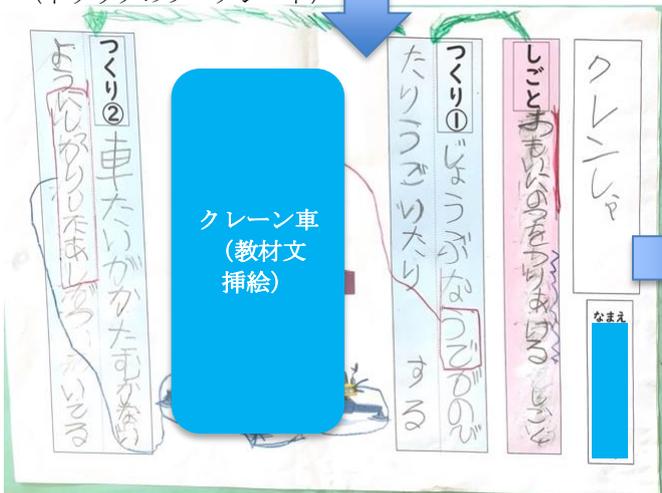


(トラックのワークシート)

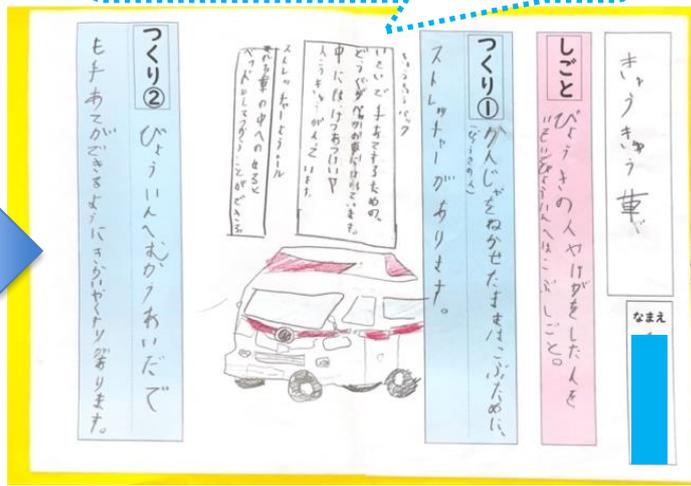
単元が進むにつれて、書く量が増えるようにワークシートの形を変えて活用した。児童によって、選ぶワークシートが違い、どの児童も無理なく読み取れていた。

疑問や気付きを書き込む様子や、挿絵に気付きを書き込む様子など、児童によって様々な活用の仕方が見られた。

最終的には自分で選んだ自動車の「しごと」と「つくり」を図鑑から読み取って書く活動に繋がっていった。



(クレーン車のワークシート)



(自分で選んだ車のワークシート)

### ③ 言葉にこだわった読み

- ・「運ぶ」、「～の他」、「荷台」などの言葉や、指示語が指すものなど、児童の発達段階を考慮し、一つ一つの言葉が指すものを明らかにしながら読み深めた。動作化を取り入れたり、挿絵に印をつけさせたりし、言葉の意味や文と文のつながりなどを正しく理解できるようにした。

## 考えの形成のための工夫

### ① 知識や経験の想起

- ・自動車に関する本を考え聞かせし、興味・関心を高めたり、説明的な文章や図鑑を読む時の視点をもたせたりした。
- ・生活科の学習と関連させ、校外学習で見つけた乗り物を、児童とともに写真に撮り、どの児童も想起できるようにした。
- ・単元の初め、各事例の読み取りの初めなど、単元を通して、自動車について知っていることを話す時間を確保した。

### ② 既習揭示の活用

- ・自動車について知っていることを話し、それぞれの児童の既習の知識や経験について想起した際は、その都度揭示した。揭示しておくことで、いつでも思い出すことができ、児童は、友達の話から知識や経験を思い起こしたり、授業の中で自分の考えにつなげるきっかけにしたりしていた。



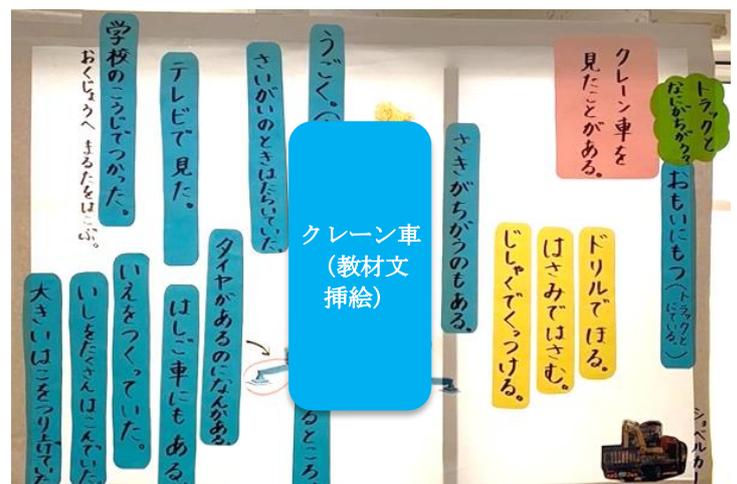
(知っている自動車について話した際の揭示)



(バス・乗用車について知っていることを話した際の揭示)



(トラックについて知っていることを話した際の揭示)

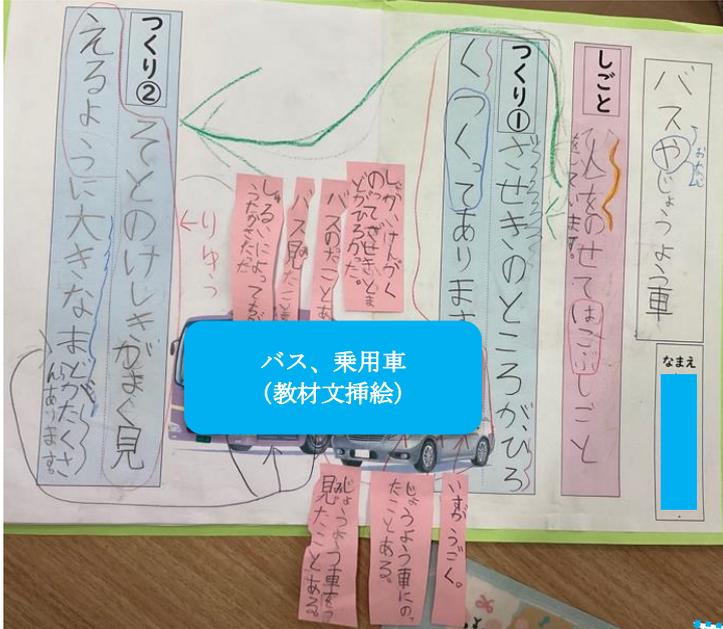


(クレーン車について知っていることを話した際の揭示)

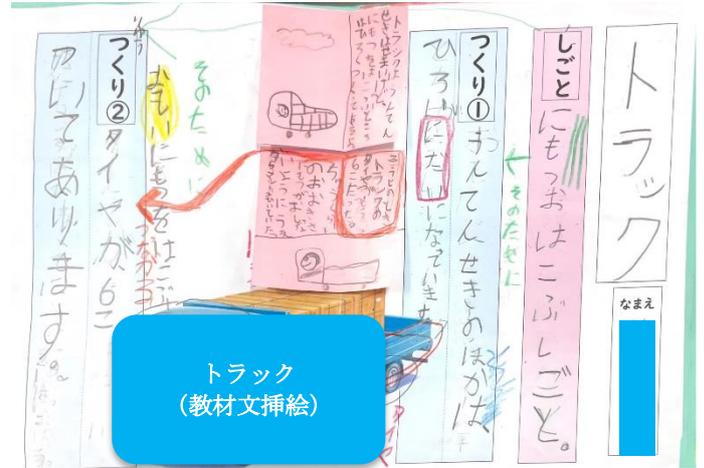
常に揭示しておくことで、思い出した時や経験した時にいつでも揭示できたり、関連させて想起しやすくしたりすることができた。お家の自動車を改めて見て友達に伝えたり、お家の人に話を聞いたりする児童もいた。

### ③ ワークシートの工夫

- ・想起した自分の知識や経験と文章の内容を結び付けられるように、付箋を活用した。第二次で書いたそれぞれの事例についてのワークシートに、それまでに想起したことを付箋で貼り、解釈に繋げた。



(バス・乗用車のワークシートに付箋を貼ったもの)



(トラックのワークシートに付箋を貼ったもの)

付箋を活用したことにより、想起した内容を思い付いた時に書き、ためていくことができた。それを関連する内容に貼ることで、結び付けて考えることができていた。

## (2) 児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

### 内容の理解（「しごと」と「つくり」を読み取る）際のつまずき

#### ① 「しごと」と「つくり」を抜き出すことが難しい児童

〈講じた手立て〉

- ・ワークシートの穴抜き部分の量を調整することでどの児童も「しごと」と「つくり」を理解し、抜き出せるようにした。しかし、書くことに課題がある児童にとっては、本文の言葉をそのまま書き写すこと自体が難しく、抜き出す箇所が分かっても、書けないことがあった。読みの時間は「読むこと」に時間をかけられるように、本文を全て書いたワークシートにアンダーラインを引くなど、別の手立てを用意する必要があった。

#### ② 言葉の理解が難しい児童

〈講じた手立て〉

- ・動作化や挿絵の活用に加え、実体験を想起させたり、写真や動画を活用したりして、理解を深められるようにした。児童によって理解の仕方は様々であるため、一つ一つの言葉に立ち返りながらいろいろな方法で理解を深める必要があった。

### 考えの形成の際のつまずき

#### ① 自分の経験や知識を想起することが難しい児童

〈講じた手立て〉

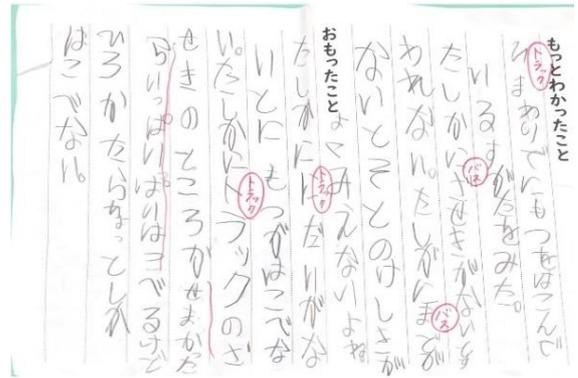
- ・上記した既習提示の活用は有効であったが、友達の想起した内容は、自分が経験していても自分の経験として捉えられない児童もいた。その児童に対しては、児童が自動車と一緒に写っている写真を撮っておき、その写真を見ながら想起させることが有効であった。

② 想起した内容が整理されていない児童

〈講じた手立て〉

- ・個別の声かけをし、一つ一つがどの自動車の想起内容かを確認していった。

トラックとバスについて想起したことがバラバラに書かれていたため、何について書いているか教師が問いかけながら整理した。



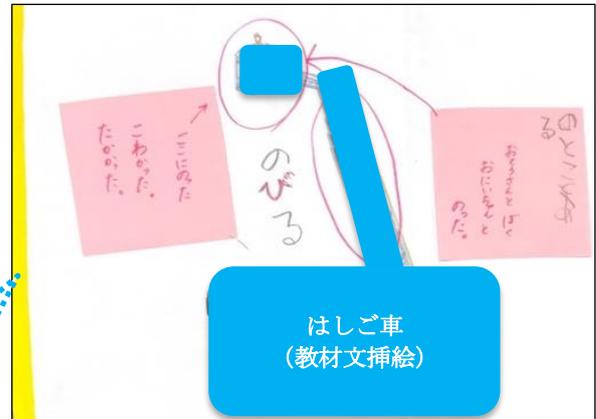
(想起したことが整理されていない児童のワークシート。赤字は教師が問いかけながら書き加えた部分。)

③ 想起したことと文章の内容を結び付けることが難しい児童

〈講じた手立て〉

- ・想起した内容をためておき、その中から本文に結びつけられそうなものを選ぶ。」という方法が難しい児童は、逆に、「本文から想起できることを思い出していく。」という方法をとった。個別の声かけをしながら想起させていく必要があるため、一斉指導では難しかった。絵を描くなどの、文章表記以外の方法を選択肢として用意しておくことや、ペア活動などで対話し、思いを引き出し、録画しておくことなどの工夫が考えられる。

書いて表現することが難しかったが、個別に聞き取ると、自分の体験を話すことができたため、教師が聞き取ったことを代わりに記述した。

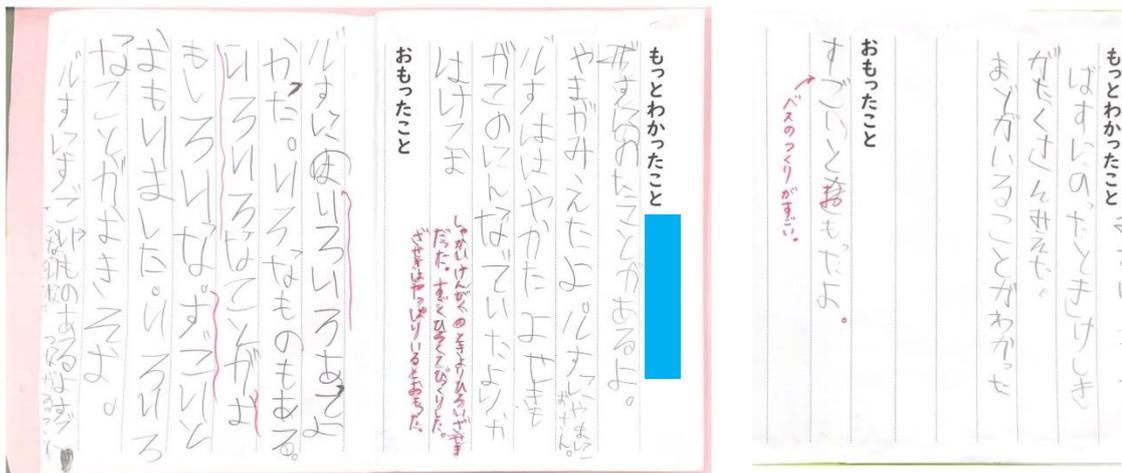


(結びつけが難しかった児童のワークシート)

④ 自分の考えをもつことが難しい児童

〈講じた手立て〉

- ・ワークシートに書く際、児童の言葉では「すごかった。」「びっくりした。」などの簡単な言葉になるが、個別に詳しく聞くと、精査・解釈し、理解を深めたからこそその気付きや驚きがあることが分かった。そうした児童の中にある思いを今回のワークシートでは引き出し切れなかったため、話す活動を取り入れたり、ワークシートに理由を書く欄を設けたりするなど、さらに工夫が必要であった。



(思いはあるが文章で書くことが難しかった児童のワークシート)

「すごい。」「いろいろ」といった言葉を詳しく聞いていくと、その児童なりの思いがたくさんあった。その思いをどのように引き出すかについて、さらに改善が必要である。

## 11 評価の実際

### (1) 評価の具体

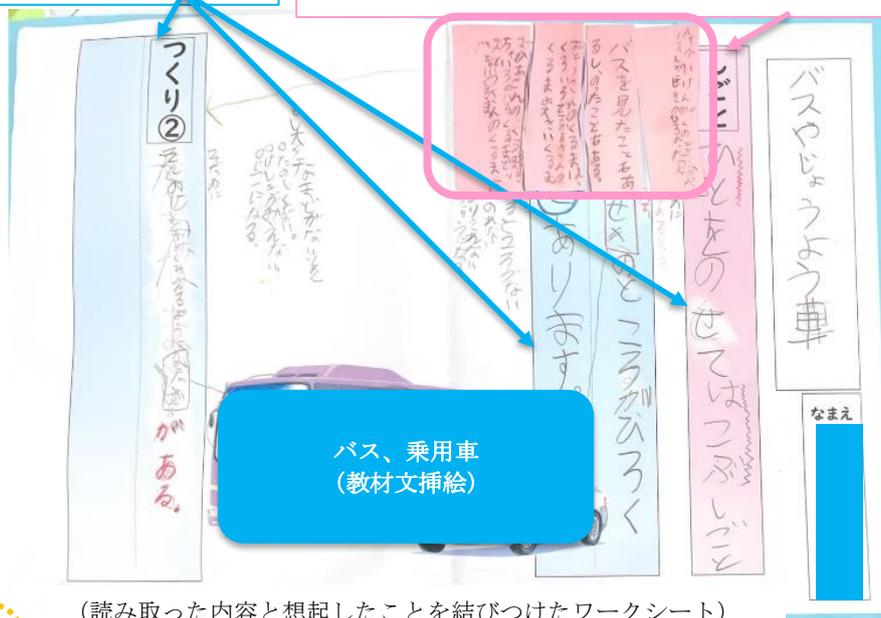
- ① 文章の中の「しごと」と「つくり」を考えて選び出すことができる。
- ② 既存の知識や経験を想起し、文章の内容を結び付けられている。
- ③ 結びつけたことで内容理解が深まっている。(解釈)
- ④ 解釈したことをもとに感想をもつことができる。

以上の4点ができている児童を「おおむね満足できる」状態(B)とし、それに加えて、自動車どうしを比較して共通点や相違点を見付けたり、気になったことをさらに調べて他の学びに広げたりしている児童を「十分満足できる」状況(A)とした。

### 【「おおむね満足できる」状況(B)の児童①】

① 文章の中の「しごと」と「つくり」を考えて選び出すことができる。

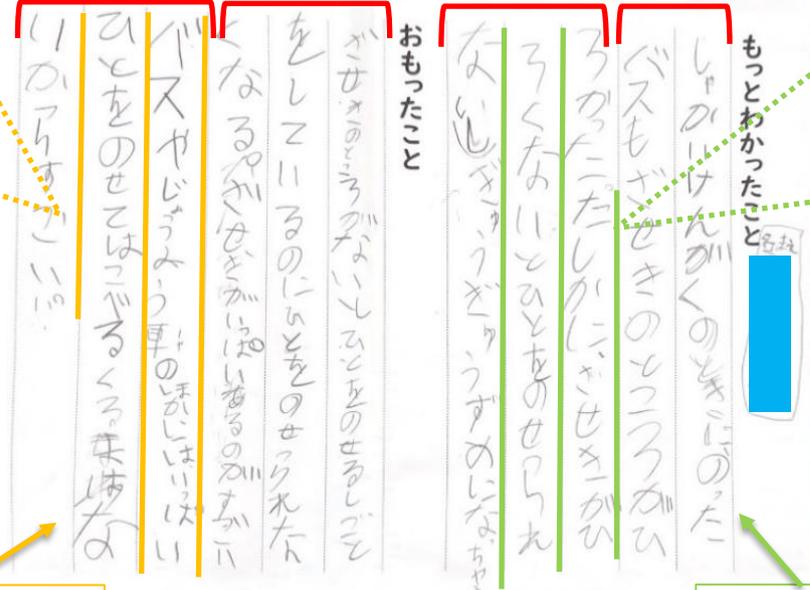
② 既存の知識や経験を想起し、文章の内容を結び付けられている。  
(関係する箇所に想起した内容を書いた付箋を貼っている。)



(読み取った内容と想起したことを結びつけたワークシート)

他の自動車と比較し、「バスや乗用車の他に  
はいっぱい人を乗せて運べる車はない。」とい  
う気付きをもっている。その気付きを根拠に  
「すごい。」という思いをもっている。

比較し気付きをもった部分    思いを持った部分    理解を深めた部分    自分の経験の部分



社会見学の時にバスに乗った経験と結び付け  
ることで、「たしかに座席がひろくないと人を  
乗せられない。」という思いをもち、  
文章に書かれている内容の理解を深めている。

④ 解釈したことをもとに感想をもつことができる。

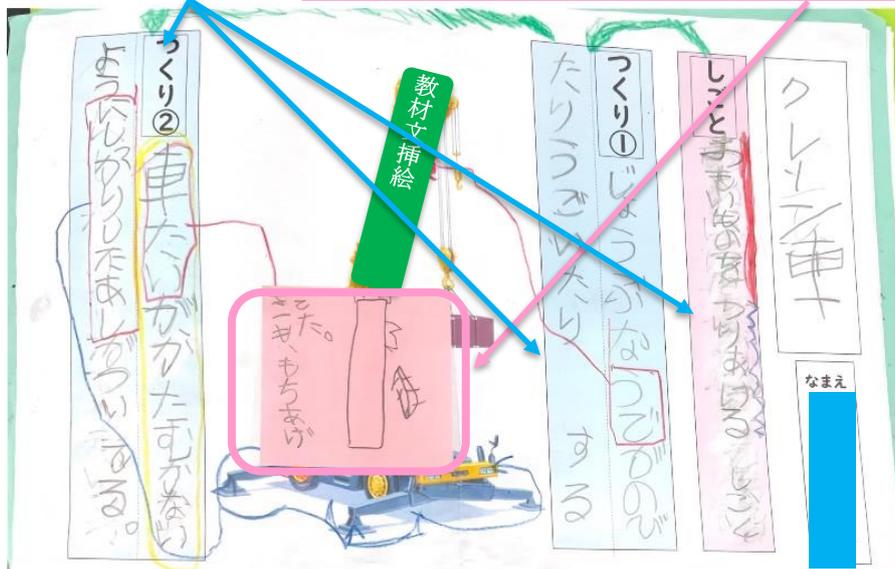
(解釈・考えの形成時のワークシート)

③ 結びつけたことで内容理解が深まっている。(解釈)

【「おおむね満足できる」状況（B）の児童②】

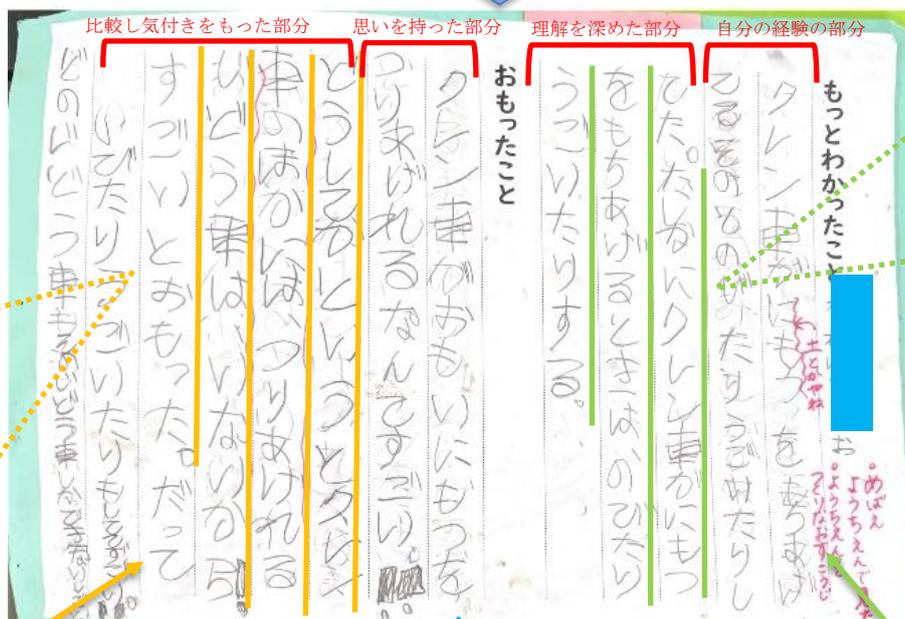
① 文章の中の「しごと」と「つくり」を考えて選び出すことができている。

② 既存の知識や経験を想起し、文章の内容を結び付けられている。（関係する箇所に想起した内容を書いた付箋を貼っている。）



(読み取った内容と想起したことを結びつけたワークシート)

他の自動車と比較したうえで、「クレーン車の気付きをもっている。その気付きを根拠に「すごい。」「という思いをもっている。」



クレーン車を見た時の経験と結び付けることで、「たしかに荷物を持ち上げる時には伸びたり動いたりする。」と、内容の理解を深めている。

④ 解釈したことをもとに感想をもつことができている。

(解釈・考えの形成時のワークシート)

③ 結び付けたことで内容理解が深まっている。（解釈）

児童から出てきた感想は、それぞれの自動車の特徴を捉えているものや、自動車同士を比較してその仕事や造りに対して感想をもっているもの、他の自動車への興味を広げているものが多かった。

(2) 児童の評価

本単元を終えて、「十分満足できる」状況（A）の児童は6人、「おおむね満足できる」状況（B）の児童は22人、「努力を要する」状況（C）の児童は3人であった。「努力を要する」状況（C）の児童は、以上の4点のいずれか、または複数の項目で「努力を要する」であった。その児童に対しては、上記（2）のつまずきに応じた手立てを講じた。

## 12 成果と課題

### (1) 成果

#### ① 考え聞かせの効果

児童と対話しながら行う考え聞かせは、一人一人の児童の知識や経験を想起させるのに有効であった。物語だけでなく、図鑑などでも考え聞かせを行うことで、児童の知識や経験を引き出し、共有することができた。継続して行うことで、児童のつぶやきも増えていった。

#### ② 既習掲示の活用

考えの形成において、想起した知識や経験をどのように残していくかが大切だと感じた。思い出した時に書かせたり、掲示したりして児童の発言を残しておくことで、思い出せる内容が広がっていったり、考えの形成に繋がったりしていた。

#### ③ ワークシートの工夫

児童が必要感をもって取り組めるようなワークシートを目指した。児童がワークシートの形態を選べるようにしたり、自由に書き込めるようにしたりしたことは有効であったように思う。また、児童がどのようにして考えを形成したのかが見えるようワークシートを構成することも大切であると感じた。

#### ④ 言葉にこだわる指導

一つ一つの言葉の意味を曖昧にせず、その意味を考えさせることで、理解が深まっていくのを感じた。毎時間の積み重ねで、児童自身で言葉に引っかかりながら読み深めることができるようになっていったことは成果である。

#### ⑤ 単元のゴールの設定

本単元では、「のりものやさん」になって自分で選んだ自動車を紹介することを単元のゴールに設定した。学習計画を児童自身で立てたことで、単元を通して学習意欲を持続させることができた。「相手に自分の選んだ自動車のことを伝えたい。」という気持ちが、「どうしたらもっと分かりやすく説明できるか。」「自分はその自動車をどう思っているか。」という思いにつながり、学習が深化していった。つきたい力につながるもので、児童がワークして取り組めることを単元のゴールに設定することが大切であると感じた。

#### 【単元のゴールの姿】のりものやさん（チームで自分が選んだ自動車を紹介し合う活動）

バスがおすすめです。  
人を乗せて運ぶ仕事で、そのために、座席のところが広くつくってあります。  
外の景色がよく見えるように、大きな窓がたくさんあります。  
わたしも社会見学の時に乗ったけど、座席がすごく広くてびっくりしました。  
こんなに人を乗せられる自動車はバスだけだと思いました。  
とてもおすすめですよ。

毎時間のワークシートを図鑑の形に貼り、一人一冊「自動車図鑑」ができた。

「のりものやさん」では、その図鑑を見せながら、自分の思いを入れてそれぞれの自動車を紹介する活動を行った。

お互いの紹介を聞き合い、自分の考えと比べ、さらに興味をもったり、自分の考えとの違いを楽しんだりする姿があった。



児童が作成した「自動車図鑑」

## (2) 課題・改善

### ① 「読むこと」に時間をかける授業の工夫

精査・解釈の段階で、書字することへの難しさから、「文章の内容を理解し、重要な語や文を選び出せていてもワークシートに書けない」という児童がいた。

⇒読むことウの指導事項には、「文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。」とある。資質・能力の育成のためには「書かせる」ことではなく「選び出す」ことが大切であることを教師が意識し、本文に色分けして線を引く、ICT活用によって音声入力や録画機能を使うなど、「文字を書く」以外の方法も想定しておくことで、身に付けさせたい力を正確に見取れるようにしていきたい。

### ② 考えを想起させることの難しさ

児童一人一人がもっている知識や経験は様々であり、それが違うからこそ出てくる考えが多様になる。知識、経験の差を教師がどう扱っていくかが大切であると感じた。知識、経験を想起させるために様々な手立てを用意したが、児童によってどの手立てが有効かは当然異なる。一人一人に合った手立てで、どの児童も考えの形成につなげられるようにしていきたい。また、想起した内容を共有する難しさも感じた。友達の話をも自分のことにつなげ、新たな内容を想起できる児童は多かった。しかし、児童の中には、「写真や映像に自分が写っている。」など、自分と思い出す対象の自動車が意識できるものがないと想起が難しい児童もいた。

⇒今回の手立ての中では、対話による想起、想起した内容の掲示、付箋の活用は有効であったように思う。今回、「考えの形成」を取り上げた学習は児童にとって初めてであったが、単元が進むにつれて、自然と児童から自分のこととつなげながら話す発言が出てくるようになった。今後の授業でも、自分のこととつなげて考えることを意識して取り組ませしていきたい。また、考えの想起において、単元の初めの「題名読み」の大切さも感じた。単元導入時に、どんな内容なのか想像を膨らませたり、知っていることを自由に話し合ったりする中で多くのことが想起されたように思う。

### ③ 知識や経験を結び付けることの難しさ

児童が想起したことの中で、本文の内容に結び付けられるものは、意外と少ないと感じた。

⇒今回のように、思いつく限りたくさん出しておき、後で結び付けられるものに貼る方法、逆に、読んだ内容から想起できることを考えていく方法、どちらからのアプローチも必要だと感じた。

### ④ 考えの形成の評価

精査・解釈を経て形成された児童の考えをどのように見取り、評価していくかが難しかった。自分の思いをすらすら文章として書ける児童は、考えた経緯が見えるが、それが難しい児童もいる。児童から出てくる言葉は、「すごい。」「びっくりした。」といった簡単な言葉であっても、個別に聞くと、その言葉の中にたくさんの思いがあることも多かった。ワークシートに文章として出てきたものに、体験と結びつけた解釈があるかどうかの見取りは、今回、個別の聞き取りとなってしまった。

⇒児童同士で思ったことを話す時間を設け、それを動画で残す、理由などを付け加え、ワークシートに考えたことを詳しく書けるようにするなど、考えの形成を見取り、評価する工夫が必要であった。また、今回、毎時間「まとめ」として1時間の授業で分かったこと、「振り返り」として自分が思ったことを書かせていったが、毎時間の「まとめ」や「振り返り」は、単元末での考えの形成の元となったように思う。考えの形成に向けて、単元の全体構成も考えていく必要がある。

## (2) 今後に向けて

今回、「考えの形成」を取り扱うということで、評価の具体を考えた際、本学級の児童にとってはとても難しいのではないかと感じた。児童にとっては初めての経験であり、「書くこと」に支援が必要な指導も多かったためである。しかし、単元を終え、振り返ってみると、児童はとても意欲的に取り組み、どの児童も最後は自分の思いをもてていた。教師が「考えの形成」までを意識した単元構成にしていくことの大切さを感じた。児童にとって、自分のことを話すことや、友達の知識や経験を聞くことはとても興味をもてることである。それを文章の内容と結び付け、理解を深めたり、新たな感想をもったりすることにつなげていけるよう、今後も「考えの形成」を意識した授業作りを積み重ねていきたい。また、小学校6年間を見通した、各学年での積み上げが必要であることも強く感じた。それぞれの学年での付けたい力を明確にし、学びを積み上げていけるように学校全体にも今回の学びを広げていきたい。

付録 選書リスト ※ 児童が実態に応じて選択できるよう、異なる難易度のものを選書している。

◎単元導入時に活用したもの

〈絵本〉

書名	著者名	出版社名
おたすけこびとのまいごさがし	なかがわちひろ	徳間書店
けいていー はたらきもののじょせつしゃ	バージニア・リー・バートン	福音館書店

◎並行読書として活用したもの

〈様々な種類の自動車が載っているもの〉

書名	著者名	出版社名
超はっけん大図鑑⑥はたらく車	坂井宏先	ポプラ社
3さいからののりものずかん はたらくくるま	小賀野実	ひかりのくに株式会社
まちではたらくじどうしゃ	関口猪一郎	小峰書店
スーパーワイドずかん のりもの	加治達也	学研プラス
のぞいてみよう！いろいろなのりもの	松島浩一郎	JTB パブリッシング
のりもの写真えほん① はたらく自動車ずかん	深見公子	成美堂出版

◎児童が自分で選んだ自動車をまとめる際に活用したもの

〈「しごと」と「つくり」が明確に書かれているもの〉

書名	著者名	出版社名
はたらくじどう車しごととつくり① ブルドーザー・ショベルカー	小峰紀雄	小峰書店
はたらくじどう車しごととつくり② しょうぼう車・きゅうきゅう車	小峰紀雄	小峰書店
はたらくじどう車しごととつくり③ パトカー・白バイ	小峰紀雄	小峰書店
はたらくじどう車しごととつくり④ バス・トラック	小峰紀雄	小峰書店
はたらくじどう車しごととつくり⑤ ごみしゅうしゅう車・ゆうびん車	小峰紀雄	小峰書店
はたらくじどう車しごととつくり⑥ じょうよう車	小峰紀雄	小峰書店

〈「しごと」と「つくり」を児童が自分で選び出す必要のあるもの〉

書名	著者名	出版社名
はたらくじどう車①人やにもつをはこぶ車 バス・トラック・ダンプカー	代田雪絵	学研プラス
はたらくじどう車②こうじでやくだつ車 ショベルカー・クレーン車	代田雪絵	学研プラス
はたらくじどう車③あんぜんをまもる車 しょうぼう車・きゅうきゅう車	代田雪絵	学研プラス
はたらくじどう車④くらしをささえる車 せいそう車・ミキサー車	代田雪絵	学研プラス
くらべてみよう！はたらくじどう車① しょうぼう車	市瀬義雄	金の星社
くらべてみよう！はたらくじどう車② パトロールカー・きゅうきゅう車	市瀬義雄	金の星社
くらべてみよう！はたらくじどう車③ ブルドーザー・パワーショベル	市瀬義雄	金の星社
くらべてみよう！はたらくじどう車④ バス・トラック	市瀬義雄	金の星社
くらべてみよう！はたらくじどう車⑤ せいそう車・じょせつ車	市瀬義雄	金の星社